

農業技術 フォーラム

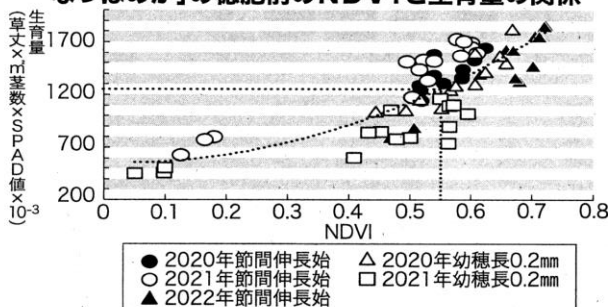
長崎県では、高い収量性がある高温耐性の水稲品種「なつほのか」の普及が進んでいますが、現場では収量が伸び悩んでおり、その原因の一つに、穂肥施用が適切に行われていないことがあります。

穂肥施用の判断のためには生育状況の把握が必要ですが、労力不足などにより十分に把握されておらず、担い手不足や規模拡大に対応して、広範囲の生育状況を効率的に把握・診断する技術が必要となつていきます。そこで、ドローンによるリモートセンシング技術を活用し、正規化植生指数(NDVI)を使った生育診断技術を開発しました。

この研究で、水稲「なつほのか」の倒伏を避けるための穂肥前(節間伸長期)幼穂形成期)の適正な生育量(草丈×1平方メートルあたり莖数×SPAD値×10)は12

水稲「なつほのか」の増収 穂肥施用の生育診断 ドローンで省力的に

「なつほのか」の穂肥前のNDVIと生育量の関係



50、その時点の稲体の窒素吸収量は10㎡当たり約4・9^キで、NDVIは0・55であることが分かりました。このことから穂肥前のNDVIを測定することで、NDVIが0・55以下では穂肥を出穂の20日前に基準量(窒素成分で10㎡当たり3^キ)施肥し、N^タ研究室主任研究員 中山美幸)

SPAD 植物の葉に含まれている葉緑素(クロロフィル)量を、葉を破壊することなく測定する機器。SPAD値で作物体の栄養状態を的確に把握し、適切な肥培管理を行い、収量や品質の向上を図ることができる。